

新講座「学芸員のリアルタイム報告会」 を開設します！

5

今までの講座は事前知識なし、当日だけでOK、もしくは興味さえあればある程度は理解できる、難しい言葉や専門用語は使わないor説明するといった意識が(一応)ありました。

…が、この「リアルタイム報告会」は**ありのままでやってみよう**という講座になっています。

学問分野ごとの専門用語や石狩の地名・地理的な情報、いわゆる基本情報等はそのままに、**よりマニアックな、より最新の話**をしよう！がコンセプトです。

講座としてはいままでの中では難しいものになりますが、その分、質問時間や講師とのコミュニケーションの時間を多めにとって、気軽にやり取りができる講座を目指しています。

いつもの講座では物足りない人、この分野なら気になるぞという人、興味程度に試しに聞いてみたい人…ぜひご参加お待ちしております！

第1回テーマ:「アオイガイ」

申し込みは10月1日～を予定しています。

※詳細は広報いしかり、資料館HPを御覧ください。

Facebook、YouTube更新中

資料館のまわりでおきた事件、新たな発見、展示や講座の舞台裏など、紹介しています！
たま～に覗いてみてください。

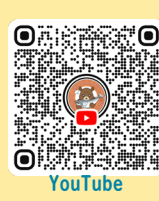
※YouTubeは不定期更新です。



資料館TOP



Facebook



YouTube

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分

休館日 毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始

入館料 大人：300円、中学生以下：無料
団体料金240円(15名以上)

交通 中央バス石狩線は廃止になりました。
代替交通をご利用ください。(要予約)



いつも
本町花川線

Pick up 「講座難易度アイコン」 作成中

いしかり砂丘の風資料館では、ものを作ったり採集したりする体験講座、野外講座、学芸員が話をする連続講座(講演)等を実施していますが、今回、よりマニアックに、よりリアルタイムをお伝えしよう！と新しい講座を開設しました(詳細は←左側を御覧ください)。

それに伴い、講座の難易度がぱっとわかるような目印として図、アイコンを作成中です。



※イメージ

- 5、専門の内容について触れます (マニアックな話中心)
- 4、大人や学習を目的とした人向き (座学中心、少し専門よりの話)
- 3、大人中心に子供も参加OK (座学の学習が多め)
- 2、子供でも大人でも気軽に (ちょっと学習タイムがあります)
- 1、子供でも大人でも気軽に (事前学習なしでOK)

この難易度アイコンは、あくまで知識(学問上、歴史の基本知識、石狩についてなど)について限定して5段階で示しています。

もちろん事前知識がなくても興味があれば楽しめる！という方も、わからないかもしれないけどお試しで...という方も大々大歓迎です！

今後の講座、特に新しい講座開設の際にはこのアイコンを掲載する予定です。受講の参考にしてみてください。(現在鋭意制作中のため、完成したものをHPで公開予定です。)

これ以外にも、毎年やっているけどどんな講座だろう？興味はあるけどいきなり参加するのは不安…。こんな講座はある？等、気になる場合はぜひ、気軽に資料館に聞いてみてくださいね。

いしかり砂丘の風資料館だより エスチュアリ No.77



2026(令和8)年9月15日 発行
いしかり砂丘の風資料館
(石狩市教育委員会文化財課)
〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4
TEL:0133-62-3711 FAX:0133-77-5011
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/



氷を割って進む渡船やはた丸

下の写真は戦前の絵はがきです。写っている渡船はおそらく17人乗りの木造船「らんこう丸」ではないかと思われます。



別の絵はがきには、乗り切れない客が渡船につながれたいかだのような小舟に寄せられている様子が写っています。



このような小さな木造船では川が凍結する冬期間は運航できず、人々は凍結した氷に木の枝を束にしたもの等を埋めて強化した「氷橋」を歩いて往来していました。しかし、1959(昭和34)年に鉄造のやはた丸が就航すると、冬期間の運行が可能となり、これに伴って冬の風物詩だった「氷橋」も無くなりました。

やはた丸は12.52トン、定員32人の旅客専用船でした。それまでは5トン程度の木造船でしたから、バリバリと氷を割って兩岸の渡船場を往復する姿は壮観なものだったでしょう。兩岸の渡船場は約239メートルの距離があり、これを10分程度で渡りました。八幡町から対岸の石狩中学校に登校する生徒、仕事や買い物で往来する人々が利用し、牛乳の輸送も渡船が使われました。自動車の利用は年々増加し、カーフェリー(自動車専用船)が導入された1962年の約8万2千台から10年後の1971年には、5倍以上の約42万台となりました。

(工藤 義衛)



テーマ展

紅葉山33号遺跡の石器と漆塗り弓 ～続縄文文化前半期の道具と祈り～

開催期間：2026年9月18日(金)～11月3日(火・祝)
(休館日：火曜日、祝日の場合は翌平日)
会場：いしかり砂丘の風資料館
(※詳細は、いしかり砂丘の風資料館ホームページをご覧ください)



秋季に開催するテーマ展「紅葉山33号遺跡の石器と漆塗り弓～続縄文文化前半期の道具と祈り～」について、その見どころを中心に紹介します。

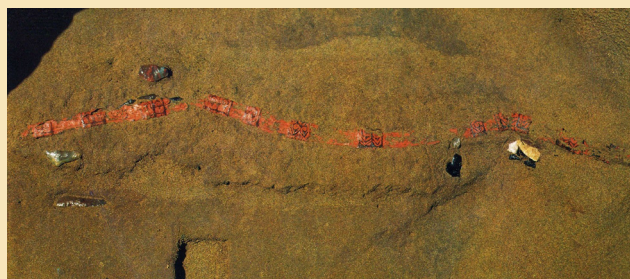
見どころ①

約2000年前の渦巻文を入れた 朱色の漆塗り弓(市指定文化財)

石狩市紅葉山33号遺跡から出土した「漆塗り弓(文様入り)」は、花川南公園を造る工事前に行われた1982年の発掘調査のときに、約2000年前(続縄文文化前半期)のお墓とみられる穴の一つ(GP-46)から見つかりました。弓の木質部分はくちて失われていましたが、弓の全体に塗られていた朱色の漆の塗膜が平たくつぶれた状態で出土しました。

この弓の特徴は、塗膜の上に11箇所にもわたりトゲ状突起のある渦巻文を基調とする文様を茶色や黒色で描いていることです。文様をよく見ると、位置によって少しずつ異なる構図になっているのですが、いずれの渦巻にもトゲ状の突起を付けて描いています。この弓が発見されてから40年以上たちましたが、このような渦巻文を描いた漆塗り弓は、全国的にも類例がほとんど見られず、大変めずらしいものです(2025年に市指定文化財に指定)。

希少な弓の文様をお楽しみください。



石狩市 紅葉山33号遺跡
漆塗り弓の出土状況(1982年)



漆塗り弓に描かれた渦巻文様
(国立アイヌ民族博物館撮影)

2000年前の石狩へ ―文様入りの漆塗り弓と いろいろな石器―

見どころ②

道具と祈り：漆塗り弓と一緒に出土した約200点の石器類

「漆塗り弓(文様入り)」が出土したお墓とみられる穴(GP-46)では、200点を超える遺物が見つかりました。そのほとんどは石器類で、土器は1点のみでした。これらは、漆塗り弓と共にお墓に入れられた副葬品であったと考えられています。この遺跡からは1点しか見つからない精巧な漆塗り弓や、数多くの石器をもつ人物とは、この集落でどのような存在であったのでしょうか。

約2000年前といえば、本州では、水田稲作が広がり、石器から鉄器へ変わる弥生文化に当たります。一方、北海道では、稲作はおこなわれず狩猟・漁労・採集を主とし、鉄器もわずかで主に石器を使用していました。GP-46から出土した石器類には、石鏃・ナイフ・石斧・砥石・魚形石器などがあり、射る・切る・伐る・削る・研ぐ・釣るといった、当時の暮らしのいろいろな道具を知ることができます。

紅葉山33号遺跡(GP-46)出土の石器類



石鏃



ナイフ



石斧



砥石

【テーマ展関連イベント】体験講座 「漆塗り弓の文様をコースターでつくる」

紅葉山33号遺跡から出土した漆塗り弓の文様をモチーフにしたコースターをつくります。約2000年前の弓に描かれた渦巻文様に挑戦してみませんか。(講座では、針やミシンは使用しません)



開催期間・時間
2026年10月18日(日曜日) 10:00～12:00
場所 石狩市民図書館(花川北7-1)
対象 小学1年生～大人(小学生は保護者同伴)
定員 15人(申込順)
申込期間9月2日(水)～10月14日(水)
申込方法・問合せ いしかり砂丘の風資料館へ電話申込(※火曜休館)

